



広島創生イノベーションスクール 第4回全体スクール 授業記録



チームB feel

広島県立
広島国泰寺高等学校



広島県立三次高等学校



広島県立吉田高等学校



広島県立
安古市高等学校



広島大学附属高等学校



広島県立広島観音高等学校



広島市立広島工業高等学校



チームA KFS's



NPO・
大学生
メンター



事務局
スタッフ



広島県立広島高等学校



チームC

広島県立西条農業高等学校



広島県立
呉三津田高等学校



チームD レ点

広島県立尾道北高等学校



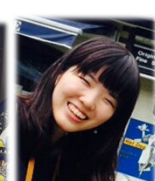
広島県立
福山明王台高等学校



尾道学園尾道高等学校



大学生 スタッフ





ワークショップ『デザイン思考』 イースト・ウエスト・センター プログラム開発ディレクター ナムジ・スタイナマン氏

同氏はこの夏、グローバルスクールで生徒たちが訪問する予定のハワイ・オアフ島のイースト・ウエスト・センターでプログラム開発ディレクターを務める。この度は本ワークショップのために来日。

Aloha and Introductions

「みなさんはこの夏、ハワイに来るのが楽しみですか？」というナムジ氏の問いかけで始まったワークショップ。まずは、「みんなが理解できるように」と易しい英語でハワイのイースト・ウエスト・センターについて紹介していきます。そこでの話題はナムジ氏にたくさんの楽しみ、エネルギーを与えてくれていること。多くの若い人たちに囲まれ、毎日たくさん刺激を受けていること...。ナムジ氏はいきいきと、ハワイでの生活について語ります。多くの生徒たちが、ほとんどの内容をつかめているようで、時折笑い声が上がる和やかな雰囲気の中、ワークショップは進んでいきました。

「みなさんが考えていくのは、2030年までのビジョンとその時のコミュニティーの未来について。その頃あなたは何歳ですか？**あなたの夢は何ですか？**」

「その夢を叶えるためには、何かをしないと行けない。**未来、それも“欲しい未来”をつくっていく必要があるんです**」

ナムジ氏のこの声を、今後プロジェクトを本格的に進めていく生徒たちは、どのように受け止めたのでしょうか。



Icebreaker Activities



部屋の真ん中に集まった生徒たち。「猫？それとも犬？」「京都？東京？」どちらが好きか、2択の質問に答え、2つのグループに分かれます。「集まった人たちで、どうしてそちらを選んだのか話してみよう。そのあと、友達は何と言っていたか発表してみよう」。ナムジ氏の指示で会話を始める生徒たち。「東京は人が多いから、京都の方がいいな」「東京に行って大好きな俳優さんに会いたい！」英語を用いて、しっかり意思疎通ができています。生徒たちの流暢な英語に、スタッフも驚きを隠せませんでした。

Mini Teambuilding Challenge –Build a Balloon Tower –

次に、5～6人のグループの生徒たちに封筒が配られました。中に入っていたのは風船とマスキングテープ。これから、チーム対抗でどれだけ高く風船を積み上げられるかを競います。「**初めの4分間はプランニングに使ってほしい**。協力とコミュニケーションが大事。それでは、始めてください！」

ナムジ氏の掛け声で一気になぎやかになる講堂。すぐに風船を膨らませるチーム、じっくり作戦会議を行うチーム…。ここでも生徒たちが使う言葉は英語です。それでも臆することなく議論を続ける生徒たちの様子に目を見張ります。



「ここの下、どうしたらいいと思う?」「3つずつ積み上げよう」。いろいろなアイデアを組み



合わせて、カラフルなタワーがいくつも出来上がりました。「何かを成し遂げるには、計画する時間があること、分かってもらえましたか?」とナムジ氏。その言葉に頷く生徒たちが何人も見られました。

Brain Storming Exercise –How might we? –

「今まで使ってきた風船では、他にどんなことができますか?」グループごとに、付箋にアイデアを書きだすブレインストーミングで、意見を出し合います。浮き輪、ランプシェード、楽器、中には「カーブを応援する」など広島愛あふれるアイデアも。その中からグループで1つアイデアを選んだら、他のチームと意見交換を行い、よりよいものへとアイデアをまとめていきます。

「ところで、学校でこんなふうなブレインストーミングをしたことがある人はいますか?」ナムジ氏の問いかけに手を挙げる生徒はごくわずか。「少ないですね。どうしてブレインストーミングは大事なのか、グループで考えてみて」。「他の人の意見を聞いて交流することで、新たな意見に気付いたり、応用したりできる」「チームメイトの意見をつなぐ中で、新たな視点を得ることができる」「前向きな話合い、問題解決ができる」。次々と前向きな意見が並びます。ここで、発表する生徒の様子を見て何かに気付いたナムジ氏。

「発表するときには、みんなを見ながら話してみて。海外ではお互いに顔を見て、目を合わせて関係を築いていきます。ゆっくり、アイコンタクトを取ることを意識してみましょう」。ナムジ氏のアドバイスを受けてからも、たくさんの生徒たちが意見を発表します。「いろいろな専門知識の共有ができる」「たくさんの意見が出ることが、新しい意見につながる」。

「たくさんのアイデアが出ましたね。ブレインストーミングは“書く”ではなく“つくる”もの。さらに豊かなアイデアを生み出す、1つの方法です」とナムジ氏。

今まで何度も取り組んできたブレインストーミングの大切さを再確認したところで、今日のワークショップは終了です。ナムジ氏のワークショップは、明日に続きます。



文責：県立広島大学3年 時盛 郁子

P4Yワークショップ@講堂

2日目



Snowball Fight

- ・紙に他人にはあまり知られていない自分の事実を英語で二つ紙に書く。
- ・その紙を丸めて音楽に合わせて雪合戦しよう！
- ・音楽が止まったら、近くに落ちている紙の雪玉を拾って、紙に書かれている二つの事実をもとに、英語で質問しながら、その持ち主を探そう。



紙には、「私は30の県に行ったことがあります」「トータルテンボスに会ったことがあります」など相手の興味を引くような事実が書かれていて、苦戦しながらも活発に英語が飛び交っていました。正解者は2, 3組いたようです!!!!

ナムジ：なぜ自分のことを書くのは難しかったのか。それは、かっこいいことを言おうとしたり、面白いことを言おうとしたりすると思いつかばないことがあるからである。

Ready, set, design activity



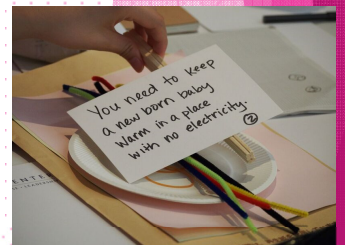
デザイン思考は、人間を中心に据え、問題を解決するためのプロセスである。

共感→問題定義→アイデア出し→プロトタイピング→テスト

正解は一つではない。答えはたくさんあるはずだ。あなたのサービスを誰が使うのか、誰のための解決策なのかを考え、その人を知ることが重要。

問題解決のための解決策をたくさん考えていく。プロトタイピングとしてまずは簡単なものを作ろう。

- ・それぞれのチームに材料とチャレンジカードが渡される。
- ・チャレンジカードに基づき、「誰のため/何のため/なぜ」について考える (10分)
- ・プロトタイピングを作成 (15分)
- ・他のチームとアイデアを共有し、フィードバックをもらう (10分)
- ・フィードバックを基に新しい解決策を考え直す (15分)
- ・発表とリフレクション (20分)



ナムジ：一人一人が意見を出すことが重要だ。イノベーションは完全に新しいものでなくてよい。すでにあるものを取り入れる。よりよいものに改良していくのもイノベーションである。





Self portrait with name and Sharing appreciate

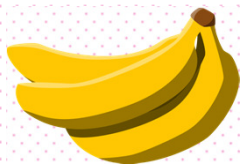
- ・紙にマーカーで名前を書く（これは冒頭のアイスブレイクで行った）
- ・自分の顔を書く。
→物に例えてもいい，棒人間でもヒーローでも花でも
- ・部屋の後ろの壁へ，自分の身長と同じ高さのところに自分の絵を貼る



- ・ありがとうと言いたい人に付箋へメッセージを書く
→「協力してくれてありがとう」「あなたと活動出来て楽しかった」など
- ・そのメッセージを先ほど作った相手の似顔絵のところに貼る



他にもナムジは，目をつぶって自分がいいことをしたなあと思うこと，どんな小さなことでもいいので二つ考えて。そして自分の肩を叩きながら，Good jobと自分をほめてあげて。あなたの周りの3人もgood jobとほめてあげてなど，心温まるアクティビティをたくさん行ってくださいました。



Banana Surgery

- ・各テーブル本のバナナをグループの人数分だけ同じ大きさに切っていこう
- ・切ったバナナを爪楊枝を使って元に戻しましょう

バナナを切り終えた後で...

ナムジ：食べられると思った人？

生徒：「は～～～い！」

ナムジ：いったん切ってしまうもとには戻らないということを知りましたよね。

それと同じで，大事な仲間も切ったら戻らないこともある。

そうならないように，**お互いチームの仲間を大切に**して。



今回のワークショップは，デザイン思考におけるプロトタイピングの実践などとても有意義なものになりました。また相手を知ること，大切にすることなどを改めて実感するよい機会になりました。次はいよいよハワイです！



前回の第3回全体スクールで大きな動きが見られた各エリアの活動。前回から1か月近くが経過し、エリアAでもまた、新たな動きが見られています。

今の課題：どうやってつながりレベル0の人を引っ張り込むか

①独自のイベント

- ・一軒一軒個別に訪問、ポストへの投函を行う。
- ・学校での文化祭をきっかけにする。
- ・学校でのふれあい広場にブースを設ける。
- ・人通りの多い場所を利用すれば幅広い世代の目に留まる。

②人→イベントの流れ

- ・一軒一軒個別に訪問、ポストへの投函を行う。
- ・学校でチラシを配布する。

③イベント→人の流れ

- ・つながりレベル0の親にアピールする。
- ・学校でチラシを配布する。

「①を理想として②、③がある感じだね」。3パターンのプランがあるものの、どのように動いていきたいのかはしっかり決まってきたようです。しかし、ここでメンターから指摘が入ります。

「独自のイベントをやるにしても、対象にする小学校に文化祭やふれあい広場があるかどうか分からないから話が進まない。もしなければ、①は取っておいて先に実績をつくっておくのも手だと思う。そこで③、顔が狭い子供を対象としてイベント、発信方法を考えてみてもいい」。その一言に納得した様子の子供たち。

「先に町内会に聞いてみていいね」

「文化祭の方が低コストで参加できる気がする。文化祭がなければ町内会で。2つを同時進行で進めてもいいと思う」

「小学校にそういうイベントがありますかって聞きに行くときに、自分たちがしたいことを具体的に決めておかないと、PRしても真剣に聞いてもらえないよね」

どのようにイベントを進めていくか、生徒たちの意見は大きく分けて3つのグループに分かれているようです。1つ目は「小学校から聞く」、2つ目は「町内会から聞く」、3つ目は「同時進行」。どうしていくべきか、話し合いを進めます。

「同時進行はやめた方がいい。ダブルブッキングが起こってくるし、先輩たちが抜けるから人数的に対処できなくなる」

第1回全体スクールから企画案を考えてきた3年生は、ハワイでのグローバルスクールをもって広島創生イノベーションスクールから卒業します。このプロジェクトを、先輩たちに代わって引っ張っていく2年生だからこそ、出た意見です。

「どちらから進めていく？」

メンターの問いかけに、「町内会」「小学校」と、どちらの声も上がります。



「町内会からがいいと思うのは、もう町内会長に説明をしているから。盆踊りなどの行事も確定しているから、いつに照準を合わせるかも決めやすい」

「でも町内会って、つながりレベル0の子供たちは来ないんじゃないかな」

「小学校でできるとしたら、『この子もしかしたら、つながっていないのかな』っていうのが見つけられる気がする。そこから後のイベントも売り込んでいけたらいい」

「どうして町内会が出てきたかっていうと、小学校は『個と個』のつながりだから、『個と地域』のつながりが欲しいっていうところから。小学校でのイベントだと『地域』が出てきにくい。町の子供の笑顔を増やすなら、『個と地域』のつながりは必要なはず」

どちらの意見も拮抗していますが、今日のゴールの進捗状況プレゼンまではあと少し。多数決の結果、小学校から声をかけてみることになりました。



前回の全体スクールで出たイベント・公園マップのアイデアは、ぐっと現実的なものになってきていました。マップの上の赤丸をクリックすると、別ウインドウでその施設のホームページが開きます。

「相互リンクを貼ってもらえば、マップ上でも地域のつながりが作れそう」

『エリアA 進捗状況報告』

エリアAでは、町内会と連携してイベントをする、マップをつくるという2つの柱がありました。イベントについては、協力してもらわなければ資金が集まらないから低コストで一度イベントをしたいと考えています。今日の話合いでは小学校に協力してもらうということになりました。生徒全員が参加する文化祭などで、顔の狭い子供たちを見つけ、関わっていきたくて考えています。

また、今回は実際にマップもつくり、別ウインドウでホームページを開けるようになりました。今後はイベント・祭りマップの相互リンクを貼ってもらうことを目標に、企画を進めていきたいと考えています。

新1年生を迎え、企画もどんどん動き出した今回の全体スクール。次はいよいよ、ハワイでのグローバルスクールが待っています。生徒たちはそこで、どんな経験をするようになるのでしょうか。

広島を、日本を飛び出して、いざ、ハワイへ!

エリアB



「トナカIFEス」とは、都市部と山間部との間の格差を是正することを目的とした子供たちが主体的に学ぶための、エリアBが企画するイベントである。

①「トナカIFEス」プレゼン

- プレゼンの方法についての議論
- 二つのプレゼンを比較

②リフレクション

- それぞれのプレゼンのよい点と改善すべき点をまとめる。

1つ目のプレゼンについて

よい点

- ・構成が明確。
- ・客観的に聞いたら持つであろう疑問や自分たちの活動内容について、具体的な例を挙げて、説明している点。
- ・ストーリーの流れ。
- ・問いかけから説明が始まる点。
- ・最後の決め台詞。
- ・ボディランゲージが効果的。
- ・話すスピードがちょうどよい。
- ・インパクトがある。

改善すべき点

- ・熱意が伝わらない。
- ・略語が多すぎてわからない。
- ・問題点と解決策の説明が浅い。
- ・フェスの具体的な情報がない。
- ・イノベーターの具体的な像が見えなかった。
- ・企業に求めていることが、分からない。
- ・「ここまでは自分たちでできる」が必要。
- ・都会からのイメージがなく、一方的。

2つ目のプレゼンについて

よい点

- ・最後のまとめがわかりやすい。
- ・具体的な説明が多くて、わかりやすい。
- ・実体験が起点となっている点。
- ・ストーリーの流れがよい。
- ・落ち着いて聴くことができる内容。

改善すべき点

- ・いきなり具体的な話題に入りすぎている。
- ・淡々と説明しすぎ。
- ・具体例を入れるべき
- ・頭に残る言葉(キーワード)がなかった。
- ・どこでどのような経験をさせたいのか不明瞭。
- ・フェスティバルの規模などがわからない。



【進捗状況報告】

- 一年生に向けてプレゼンを見せることで、エリアB全体に活動内容を把握させることができた。
- プレゼンに具体性がないこと、略語が多くてわかりにくいなどの改善に向けて、貴重な意見を聞くことができた。
- 本発表に向けて、洗練していきたい。

エリアC

✓ 今日話したいこと

01 前回のスクールで有識者の方々に頂いた指摘について
02 平和の企画内容について



01 有識者の方々に頂いた指摘について

分析が不十分
であること

革新性が希薄
であること

2030年にイノ
ベーションを
終わるとは？

02 広島現状を踏まえた平和の企画内容について

語り部をつくる活動は現実的ではない。
すでに類似した活動が存在している。



- 目標は変えずに活動内容を変えるとか？
- でも、あと1週間しかないから時間がない
- 平和という広いけどベースはどこなのかな？
- 前回の全体スクールでみんな頑張って企画を立てたのに、0から立て直すのは難しい。
- 5月7日にフィードバックを受けてからの変更だと遅いかな。

2030年にイノ
ベーションを
終わるとは？

このイノベーションを終えるに関しては、聞き手と皆の捉え方が違っていた。同じ捉え方をしてもらうために、伝え方を改善することで解決するよ。

平和というテーマについて

- ・企画において革新性がないというのが一番の問題点。
- ・帰りたくなる広島との関連性がまだよく理解できていない。
- ・そもそも広島を出ていくのはどんな原因がある？
- ・テーマが大きくてよく分からない。
- ・形にするのが難しそう。
- ・今が平和で、しかもそれを地域で考えるって…。

テーマに納得しながらも不安な2・3年生。1年生には、テーマが「平和」に決定した経緯について、再度説明する。



ここで！！ 考えてみた！

これからどんなことをするのか全くつかめないから案を考えてみた！
語り部・ガイドさんのお話を聞いて、平和を伝えていきたいというその姿勢がとても大切だと感じた。1回目の活動の目的は、平和を伝える手段として何をしたいかを決めること。（例：ミュージカル、メッセージアート）。それを2回目の活動でやってみる。最後は振り返りをして、ニュースレターとして記録を残す。自ら近づいていく姿勢を大切にして、何かしてあげるのではなく一緒に考える。

革新性が希薄
であること

上記の企画を踏まえながら革新性についての提案

- ・アニメ、歌の制作。
- ・留学生もターゲットにする。
- ・広島とアメリカだけではなく、違う世界にも目を向けてみる。
- ・世界中の平和の象徴のものを集めてみる。

分析が不十分
であること

これは、今後の調査で解決できる。

企業プレゼンまでに必要な準備

- ✓ パワーポイントのブラッシュアップ
- ✓ 発表者の発表準備



上がるしかないんだよ!

チームレ点



レ点のルール

- ・ 平等な話合いの場をつくる。
- ・ 笑顔でやろう。
- ・ 書記にとってちょうどいいスピードで発表する。

今回の目標は、

- ①カッテデミー賞のスケジュールを決める。
- ②先生に模擬発表を行いフィードバックをもらう。

今までのカッテデミー賞のスケジュールとしては、5月にアポ取りや、表彰する方の許可を取り、6月に第1号の発表でした。
生徒A：どの段階で企業の方が投資してくれるのが分かる？
メンター：それは**企業次第**。

この日はなかなか話合いが進まず、時間だけがあっという間に過ぎていく・・・

司会：決まっていることはボードに書いて決まってないことを話し合おう。この前決めたスケジュールが曖昧なままなので、月ごとに決めていこうとしている。

ここで、6月にエリアスクールが出来ないことが分かり、5月に2回行うことになりました。

司会：初めの人を5月にやるか7月にやるか？5月の2回のエリアスクールは準備に充てて、7月に1人目のカッテデミー賞の表彰を行うのはどうですか？



生徒B：表彰の時間にエリアスクールをあてたら、**時間がもったいない**

司会：6月に各校でアカウントやパンフなどを作成する。しかし、6月にアカウントを作ってもすぐ広まるはずがないので早めにやろう。
協力先（SNSのフォロワー数が多い団体）へのアポイントも取らなければならない。
やはり14日までにアポ取り候補をあげる（各校一つ）

5.14 アポ取り
5.22 SNS作り

アポ取り先

表彰する人

協力先

副賞に協力して
くれる団体

司会：副賞どうしますか。

生徒：尾北は、尾道では有名なからさわアイス無料などはどうかと考えました。

先生：自分たちで「副賞をください」と言って本当に貰える可能性はあるのか？

自分たちは副賞に協力してくれるお店に何も行わないのか？

生徒：・・・まだ考えていません。

先生：そんなに甘くはないと思うぞ。

議論がなかなか進まない中、先生たちに模擬発表を行った。



模擬発表を終えて先生たちのフィードバック

- ・第1回目の表彰を7月に行う場合、第2回目はいつ発表するのか。
- ・大切な人が誰か伝わってこなかった。
- ・誰が、いつ、つくるのか分からない。
- ・お金はいくらかかるのか。
- ・高校生としての目線で、何が面白いの？
- ・なぜ、どこに、お金を使うかを示す。

進捗状況報告

- ・各学校で企業プランの作成をした。
- ・カッテデミー賞はあくまで情報発信。
- ・カッテデミー賞を行うことで何ができるか、何が必要かを考えた。
- ・カッテデミー賞のスケジュール完成予定だったが、うまく決まらなかった。
- ・企業の事前のアポが必要なので、これからの活動では、それを行う必要がある。

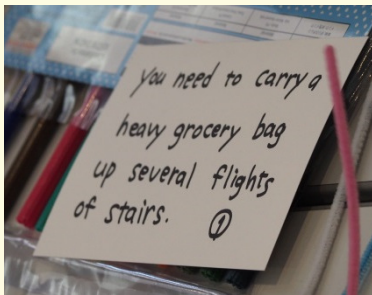


1年生が入った初めての全体スクールで、話合いに苦労した場面もありました。しかし、2年生が司会を進行して、3年生が側で見守るという場面も見られ、この1年間の活動の中での大きな成長を間近で見ました。まだまだ課題は残りますが、チームレ点の仲の良さや個性でこのプロジェクトを成功させよう！次はハワイだ！

文責:福山市立大学2年 田口真帆

生徒のリフレクションより

皆さま2日間おつかれさまでした！自分たちにとって最後の全体スクールとなり、自然にこの1年間を振り返っていました。初めてみんなに会った時、名前も顔も知らないのにいきなり地方創生について考えさせられてすごく苦しんだところから始まったのを覚えています。それが今となっては、どこのエリアのメンバーもみんな楽しそうに笑顔で、それでも話し合う時は真剣な顔で議論する姿を見て、「一年で人ってこんなに変わるんだな。こんなに成長できるんだな」と強く感じました。最後のビデオは本当に感動しました。3年生のためにみんなで作ってくれたビデオをみて、「このメンバーでよかった」と心から思いました。3年生として1、2年生に何か残すことができるように、残された時間を精一杯がんばります！



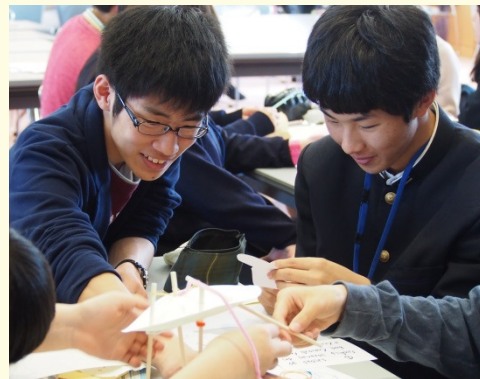
今回の全体スクールではコミュニケーションをとることの重要性を学びました。これまで英語でコミュニケーションをとるには「話す」ことしか方法がないと思っていました。しかし、話す以外にも写真を使ったりジェスチャーをしたりと様々な方法があると分かりました。大切なのは話すことではなく、自分の思いをどのように伝えるのかということだと思います。これから自分の意見を様々な方法で伝えられるようにしたいです。

今までで一番濃い2日間だったと思います。まず、今回の英語でのワーキングを通して、改めて自分の英語の語彙力やリスニング・ライティング力などの無さを実感しました。「日常会話程度ならなんとかかなるのでは？」と自負していたのですが、なんのその。周りの人たちの何十倍も劣っていて、これはまずいなと思いました。あと3ヶ月ありませんが、頑張ろうと思います。もうひとつ、ここにいるみんなは、ひとりひとり、熱い意志をもって行動しているということに気がきました。たとえ仲間同士でぶつかる時があっても、ちゃんと意志があり意見をもっているのです。一步一步自分達で定めたゴールに向かって、進んでいるのだと感じました。先輩方あと3ヶ月ご迷惑かけるとは思います、よろしくお願いします。



2日間、お疲れ様でした！新1年生にとっては初めての全体スクールで、私の学校は新1年生が今の所入っておらず、肩身が狭かったのですが、新1年生はみんな明るくて一生懸命でそのことを忘れるくらい一緒に楽しめました。今回の英語でのワークショップは、正直自信がなくて、みんなが英語をペラペラ話すのを見てさらに自信をなくしてしまった瞬間もあったけれど、お昼ご飯のときにナムジさんと話せたとき、私の話すのをずっと聞いてくれました。いろんなことを話せて本当に楽しくて、ハワイでもう一度ナムジさんと喋りたいなと思いました！エリアスクールでの活動は、1年生が話し合いについていけない時があったと思うので、これからはエリアのみんなと活動していくための雰囲気づくりをしていきたいです。ハワイまであと少しですが、受験勉強と両立して最後まで活動を頑張っていきます！！

英語を学ぶことは日々やっているし、慣れていることだけど、英語で学ぶことはとても難しく、それだけでとても疲れてしまうほどエネルギーがいるものなのだと感じました。英語で学ぶときには、「英語」という言葉を使うだけでなく、その相手の文化を尊重し取り入れる必要があると思います。その点で、今回のワークショップでは、文法ではなく何を伝えたいかに重点を置いて英語を使う貴重な経験になったと思います。



私は今回の全体スクールで多くの事を学ばせて頂きました。初めて長い間英語と触れ合い、新鮮な反面、不安もつりました。だけど、そんな時教えて下さる方々がいて本当に嬉しかったです。反省点は、1年生だから、まだ何も分からないからという事を言い訳にして、あまり発言をしなかったことです。次に話し合う時は、自分の意見をしっかりと持って、みんなと共有したいと思います。この全体スクールに参加して、広島創生イノベーションスクールという活動が、思っていた以上に素晴らしくて、誇れるものだと気付きました。尊敬できる方も沢山いらっしゃいました。自分も誰かに尊敬される人になれるよう、この活動を通して成長していきたいです！そして、今までの計画をたて、それを私達1年生に繋げて下さった先輩方に感謝をして、自分も精一杯応えていこうと思います！

